

 B. 各支部から

## 三重県支部の活動状況：三重県医師会・ 三重県教育委員会・三重県こども局と連携して

三重県小児保健協会支部長  
国立病院機構三重病院院長・小児科  
庵原俊昭

三重県支部（三重県小児保健学会）は3年ごとにテーマを決めて活動を行っている。2003年～2005年の3年間は児童虐待を、2006年～2008年の3年間は発達障害をテーマとして活動を行った。2009年からの3年間は学校保健をテーマとし、三重県内で学校保健に積極的にかかわっている医師、歯科医師、教員などに講演を依頼している。

三重県支部の活動にはいくつかの特徴がある。1つ目の特徴は、三重県医師会の乳幼児保健部会、園医部会、学校保健部会と連絡を取りながら活動を行っている点である。三重県医師会の会長は小児科医（加藤正彦先生）であり、県医師会理事にも三重県小児保健学会に属する会員が席を並べ、出産前後親子支援事業、乳幼児健診、予防接種、園医健診、学校保健などの小児保健活動にかかわっている。三重県医師会が主催する小児保健に関する講演会の情報は、三重県小児保健学会会員にも伝えられ、会員の参加が可能となっている。

2つ目の特徴は、三重県教育委員会との連携である。2009年からは学校保健をテーマにしており、県教育委員会との連携がますます重要になっている。現在県教育委員会が取り組んでいる食物アレルギー対策、学校検尿、心電図検診、メタボ対策などを、年2回行う三重県小児保健学会で2009年から取り上げ、県教育委員会を通して学校保健にかかわる人たちにも参加を呼び掛けている。一方、教育委員会養護教諭部会から依頼された講演に、会員は積極的に参加している。

3つ目の特徴は、出産前から義務教育・高校教育が終了するまで、一貫した小児保健を目指している点である。小児保健の縦糸と横糸を張り巡らせ、地域の子育て支援センターと連携して、地域で子どもと家庭を支える活動を目指している。

4つ目の特徴は、県の小児保健や福祉にかかわる役職の人たちが理事に加わっている点である。三重県支部は、井澤道先生が三重大学小児科教授時代に、当時乳幼児健診に積極的にかかわっていた小児科医と三重県健康福祉部や保健所の関係者などが中心となって設立された会である。設立当時の会長は津市で開業されていた鷲尾滋夫先生であり、行政の関係者が理事に名前を並べていた。会の発足以降も現在まで、三重県の小児保健福祉にかかわる行政担当者が本会の運営に参加している。三重県支部は、三重県が目指す小児保健・福祉施策に関する情報を会員に提供する場にもなっている。

5つ目の特徴は、小児保健・福祉活動が特殊なものではなく、身近なものと感じてもらうために、三重県内で小児保健・福祉活動をしている人たちに講演を依頼している点である。地元で活動している人を紹介し、三重県内にネットワークを構築してもらうことを期待している。2010年秋の学会では「ノーテレビ運動」を取り上げ、実際に活動している教諭および校医からノウハウを学んだ。

三重県は、ねじれない子育てを支援するために「こども局」を設けている。こども局は、子育て支援される側と子育て支援する側の両者を融合させる施策を行っている。三重県小児保健学会は、今後も行政や医師会と連携して活動していく方針である。

三重県小児保健協会  
〒514-8507 三重県津市江戸橋2-174  
三重大学医学部小児科内